

生命のメッセージ展 in 関学

10/25(火)～ 等身大の人型パネルを展示して

犯罪や事故、いじめ、医療過誤、飲酒の強要などの理不尽な理由により生命を奪われた犠牲者を主役にしたアート展「生命(いのち)のメッセージ展in関学」が10月25日(火)～27日(木)に西宮上ヶ原キャンパスで開催される。人間福祉学部人間科学科の坂口幸弘教授と研究室の学生たちが主催する。同展は2001年より全国各地で開催されており、関西学院大では初の試み。

若くして亡くなった犠牲者一人ひとりの等身大の人型のパネルを約30体展示する。胸元には本人の写真と家族の言葉を刻み、足元には「生きた証」である靴を置く。「加害者も被害者も生まない、生命が守られる社会」の実現を目指すのが目的で生命の大切さを訴えるとともに無念にも亡くなってしまった人々の思いを伝える。坂口教授は「学生たちには展示を通じて同世代で亡くなった人たちの無念さを知ること、今ある生の尊さや人生を考えるきっかけになってほしいと願っています」と語る。



<生命(いのち)のメッセージ展in関学>

■日時:10月25日(火)～27日(木)

9時～17時(25日(火)は15時まで)

■場所:西宮上ヶ原キャンパスG号館2階会議室1

※一般の入場可、無料、申し込み不要

以下のプログラムは関西学院大生・教職員対象(取材は可)

<講演会 演題「当事者の視点から考えるグリーフケア」>

■日時:10月25日(火)15時10分～16時40分

■場所:西宮上ヶ原キャンパスG号館201

本郷由美子さん:大阪教育大学附属池田小学校の児童殺傷事件で小学校2年生(当時)の娘を失う。その悲惨な体験と向き合い、その後グリーフケアワーカーとして事件・事故の被害者の方々の悲しみに寄り添う支援活動をしている。

<映画上映会「0からの風」>

■日時:10月26日(水)13時～15時

■場所:西宮上ヶ原キャンパスG号館多機能演習室

いずれも一般からの問い合わせは人間福祉学部事務室(0798・54・6844)まで。

本資料に関する報道関係者からの問い合わせは関西学院広報室(TEL:0798・54・6017)までお願いします。

高等部生が日本魚類学会で
最優秀賞を受賞!

関西学院高等部の理科部が9月24日、岐阜大学で行われた2016年度日本魚類学会年会の高校生研究発表で最優秀賞を受賞した。

日本魚類学会は魚類学の進歩と普及を図ることを目的とした学会。会員数は約1300人で、大学等の研究者や学生らさまざまな分野で活躍している人々で構成されている。高校生研究発表はポスター発表で行われ、優秀な研究に対して賞(最優秀賞1組、優秀賞若干組)が授与される。2016年度は19件の応募があった。



理科部の研究テーマは「近畿地方におけるシマドジョウ種群の分布と遺伝的集団構造」。近畿地方で、淡水に生きるドジョウの仲間シマドジョウの倍数性とDNA塩基配列を調べ、そこからシマドジョウの分布域形成と進化を考察している。部員らは、琵琶湖淀川水域や近畿地方の日本海流河川を中心に29地点106個体から標本を作成。その後、倍数性判定や系統解析を行った。審査講評では「一般の講演で発表してもそんな色のない内容」「説明を聞かず、ポスターを読むだけで内容が理解できる」など評価された。

研究内容は、10月13日の第60回日本学生科学賞の兵庫県審査会で、最優秀の知事賞にも輝き、今後は全国審査に進む。

顧問の富永浩史・高等部教諭は「魚の採集から実験に至るまで生徒自身が興味を持って取り組み、先行研究を背景に新たな知見を見出したことの成果」と振り返る。

筆頭著者の田中康就さん(3年生)は「多くの方々に興味を持ってもらった。地道なサンプリングや実験が評価されてうれしい」と喜ぶ。

